

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

※11月は定員に達しましたので締め切りました。

《10月のおはなし会で使った本》

- 『どんぐりのうんどうかい』 あべしまこ/脚本 童心社 2020
- 『いもほりバス』（大型絵本） 藤本ともひこ/作・絵 鈴木出版 2012
- 『ハロウィンしょうてんがい』 とみながまい/作・絵 教育画劇 2021
- 『パパ、お月さまとって！』（大型絵本） エリック・カール/さく 偕成社 2015

★第2回学校図書館セミナー

- 日時：令和3年11月12日（金）14：00～16：00（受付13：30～）
  - 会場：山口県立山口図書館 マルチメディアデジ室よりMicrosoft TeamsによるLive配信
  - 講師：堀川 照代氏（オンライン配信）
  - 内容：【講義】「学校図書館活用で育む〈読む力〉と〈情報活用能力〉」
  - 対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、教育委員会指導主事等
  - 定員：オンライン参加のみ50名（要申込み・先着順）
  - 申込方法：電子メールのみ（HP上の参加申込書をダウンロードしてご利用ください。）
  - 参加費：無料
- ◎申込み・連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【お知らせ】

山口県立山口図書館では、10月1日（金）から電子図書館の運用を開始しています。利用案内はこちらから→  
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary>



【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『てがでかこちゃん』 白石一文/作 谷川千佳/絵 岩崎書店 2021.8 ¥1400

左手がものすごくでかいでかこちゃん。手がでかくてよかったことはいっぱいある。パンの生地をたくさんこねられるし、おつりをもらうときお金をこぼしたことがない。運動会の日、でかこちゃんのはでかい左手でつなひきや玉入れやダンスで大活躍。だけど「へんなのー。」という子が現れて…。とても素敵なかこちゃんのお父さんとお母さん。特性や個性の尊重をテーマに描かれた絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『パイロットマイルズ』 ジョン・バーニンガム/絵 ヘレン・オクセンバリー/絵 ビル・サラマン/文 谷川俊太郎/訳 BL出版 2021.9 ¥1500

犬のマイルズは最近ボールを追いかけなくなった。呼んでも聞こえないことがある。元気のないマイルズに、お隣のハディさんは飛行機を作ってくれた。マイルズは飛ばし方をすぐに覚え、自由に空を飛びまわようになる。そしてある日…。ジョン・バーニンガムの未完の構想を元に、妻と旧友が描き上げた愛犬マイルズの物語。いつかはやってくる大切な家族との別れを美しく切なく描く。

『やまがみさまのきょだいべんとう』 大串ゆうじ/作 偕成社 2021.9 ¥1200

ぼくの村の20年いちどの「やまがみさまだいまんぷくまつり」が近づき、やまがみさまのための巨大弁当作りで村じゅう大忙し。マンモスの肉、大粒のお米、卵500個の卵焼き。食材も道具もすべてがメガ級。弁当が完成し、すっかりたいらげご満悦のやまがみさまには、このあと大事なイベントがあった…。細かく描き込まれたユーモアあふれる絵本。読みきかせにもおすすめ。

<絵本-小学校低学年から>

『くまがうえにのぼったら』 アヤ井アキコ/作 ブロンズ新社 2021.8 ¥1400

松の木にからまった山ぶどうの実を夢中で食べている食いしんぼうのくま。「あむあむおいしい。もっとたべたいな」とどんどん登っていく。折れそうで心配になった松の木は、枝をしならせてくまをはねあげた！びよーんと飛ばされたくまは、ずぼ！と雨雲をつきぬけ…。くまのとぼけた表情とはうらはらに、お星さまや月や湖の美しい景色がページいっぱいにも広がる。最後のオチも楽しい。

<絵本-小学校中学年から>

『そらをとびたい』 山本直洋/写真 ちかぞう/文 小学館 2021.9 ¥1500

鳥のように空から大地を眺めたらどのようにみえるのだろうか？背中に大きなプロペラ付きエンジンを背負って飛ぶモーターパラグライダーで、空を飛びながら撮影した写真絵本。富士山より高い高度4000メートルからの風景、刻々と変化してゆく空の雲や光の景色、壮大で美しい大地の姿、想像を超える絶景が広がる。裏見開きにモーターパラグライダーと各ページの風景写真の説明あり。

り。

＜読み物一小学校低学年から＞

『かずさんの手』 佐和みずえ/作 かわいちはろ/絵 小峰書店 2021.7 ¥1200

1945年8月9日長崎市に原爆が落とされ、看護師として働いていたかずさんの海軍病院には多くの負傷者が運ばれてきた。十分な治療もできず、痛みを耐える人々は、「かあちゃん」「おふくろ」「おっかあ」と言いながらかずさんの手を握るが、かずさんは、焼けただれたその手を、ただ握り返すことしかできなかった。岩国で語り部活動をしていた故大下美津さんをモデルとしたお話。

＜読み物一小学校中学年から＞

『どっちでもいい子』 かさいまり/作 おとないちあき/絵 岩崎書店 2021.7 ¥1200

どっちがいいか聞かれてもいつも「どっちでもいい」と答えてしまう内気な女の子は。進級した4年生のクラスでは、「いてもいなくても、どっちでもいい子」と言われてしまう。そんなはるが、ひよんなことからヒップホップのスクールへ通うことに。そこには、はるが上達していくのを面白く思わないライバルがいて…。友だちに助けられながら、少しずつ自信をつけていく成長物語。

＜読み物一小学校高学年から＞

『りぼんちゃん』 村上雅都/作 フレーベル館 2021.7 ¥1400

小6の春に転校してきたのは、リボン飾りのついたゴムのポニーテールが印象的な理緒。朱理は理緒と仲良くなっていくが、理緒が父親から心理的虐待を受けていたり、父親をかばう母親からは責められたりしていることを知る。死のうとまでする理緒をなんとか守りたい朱理は、頼りにしていなかった自分の両親や姉に事情を話し解決の糸口を探っていく。新進気鋭作家による3作目の作品。

『幸せな日々』 ミロ・ガヴラン/著 ao/絵 山本郁子/訳 国土社 2021.8 ¥1500

ぼくは弁護士の母さんと二人暮らし。男同士の会話ができる父親や弟が欲しいと思っていた。そのことを知った親友のユリツアは、目ぼしい人と母さんを会わせたり、新聞に旦那さん募集の広告を出したりと、とても協力的。でも本当は、ユリツアのお父さんとぼくの母さんが再婚してくれればいいんだけど…。子どもなりの精一杯の作戦が微笑ましい、クローチアのお話。

＜読み物一中学生から＞

『ライブラリー・ツインズ ようこそ、月島大学図書館へ』 日野祐希/著 アリス館 2021.8 ¥1400

菜織と健史は月島大学附属中学校3年生の双子の姉弟。二人揃って高等部へ内部進学をする予定だが、夏休み前に菜織の成績では進学できないと宣告されてしまう。何としても内部進学したい菜織は、夏休みに大学図書館でのボランティアに姉弟揃って参加することに。菜織は大学院生の美鈴と一緒にイベントの準備に取り掛かるが…。製本に関する知識も楽しめる、双子の5日間の成長物語。

『そらのことばが降ってくる 保健室の俳句会』 高柳克弘/著 ポプラ社 2021.9 ¥1400

川井ソラは中学校2年生。中1の途中から保健室登校をしている。人と関わるのが苦手なソラだが、保健室によく来る問題児の松田ハセオに押し切られ、俳句作りをすることに。保健室の北村先生も一緒に始めた句会には、弓道部部長の榎本ユミもなぜか参加し始める。秋のある日、校長先生の思い付きで俳句大会が開かれることになり…。自分の想いを17音に託した中学生たちの心の物語。

＜ノンフィクション一小学校低学年から＞

『どんぐり・木の実の森 ハッピー工作&あそび』 岩藤しおひ/著 いかた社 2021.9 ¥1600

どんぐりバッチやブローチ、クリスマスオーナメント等、どんぐりを使って作る季節の飾りの他に、どんぐり落としやコロコロすべり台等、生活科や特別活動の集会活動で楽しめる遊び道具の作り方を紹介。どんぐり・木の実図鑑も掲載。工作前には是非やっておきたい、どんぐりや木の実、落ち葉の下処理の仕方や、道具の使い方、うまくできる接着法等、細かく親切な情報が多い。

＜ノンフィクション一小学校中学年から＞

『がっこう回文』 ながたみかこ/文 多屋光孫/絵 汐文社 2021.8 ¥1600

「2の段、囃んだのに」「池と殿と時計」「気づいて家庭好き」など、上から読んでも下から読んでも同じ文が回文。教室や休み時間など、学校をテーマにした回文ばかりを掲載。まずは、逆さまから読んでも意味が通じる言葉を探して、回文作り挑戦しよう！回文のルールや作り方も説明した、楽しい言葉あそびの本。『①授業編』『②放課後編』『③行事編』の全3巻。

＜ノンフィクション一小学校高学年から＞

『世界じゅうの女の子のための日 国際ガールズ・デーの本』 ジェシカ・ハンフリーズ、ロナ・アンブローズ/文 シモーネ・シン/絵 国際NGOプラン・インターナショナル/訳・解説 大月書店 2021.9 ¥2600

2011年、ニューヨークの国連本部で、「女の子だから」という理由で機会や権利を奪われてきた子どもたちは厳しい現状を訴えた。訴えは大人を動かし、制定されたのが10月11日の「国際ガールズ・デー」。それを記念したこの本は、世界中のたくさんの女の子たちの経験をもとにした、自分の人生や住んでいる社会をよりよくするための変化をつくりだした女の子の物語を9編収める。

＜ノンフィクション一中学生から＞

『生きる力ってなんですか？ピンチを乗り越える齋藤メソッド』 齋藤孝/著 講談社 2021.6 ¥1300

著者はテレビ番組にも出演の多い、教育学者。新学習指導要領のテーマである「生きる力」になぞらえ、コロナ禍の日常生活の中で、中学生なら誰もが抱えるであろう疑問や悩みへの対処法を、自身や身近な学生たちの経験を踏まえ、具体的に紹介した1冊。考え方や行動の変え方について、優しい語り口そのままの文章で綴られており、音読や呼吸法など、すぐに試せるものもある。

＜研究書＞

『探究学校図書館学 第5巻 情報メディアの活用』 全国学校図書館協議会「探究学校図書館学」編集委員会/編著 全国学校図書館協議会 2021.8 ¥2000

新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」での授業改善を推進する司書教諭養成のためのテキスト。第5巻は、学校教育の現場に必要な情報メディアとその管理や運用方法にも言及し、学校図書館に求められている情報活用能力の育成について解説。全国の学校の実践事例や、調べ学習や読書活動で使えるWebコンテンツ、タブレット端末の活用例も紹介。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。取書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。